



PipeLine

特集

教養科目授業の感想、意義、受講にあたってのアドバイス等

教養科目目



No.51 Contents

特集「教養科目」	P1~9
共通教育自己点検・自己評価部会の活動	P10
共通教育実施委員会からのお知らせ e-ポートフォリオを活用しよう!	P11

特集 教養科目

「教養科目」授業の感想、
意義、受講にあたっての
アドバイス等

Part 1

学生記者から

※学生記者の皆さんには、平成29年度第2学期に寄稿していただきました。



人文社会科学部
社会科学コース
3年
杉野 隼牙

「e-learning」の利点

教養科目では学部・学科問わず様々な分野を学ぶことができる。自分が何を学びたいかどんなことに興味があるのかを考えて選択することによって、より効果的な学びを実現することができる。また、教養科目は専門科目の準備段階と考えて良い。専門科目を選ぶ際の参考になることもあるため、どういった教員が授業をしているのかなども同時に考えるとよいかもしれない。私は、教養科目で「e-learning」の授業をいくつか受講した。私の周辺ではe-learningのようなネット視聴型講義を受講している人は少なかったように思う。この講義の良い点は、好きな分野の講義を選択できることはもちろん、自分の好きな時間に講義を聞くことができ、また理解できなければ何度も見返すことができるという点である。大学生では時間を有効的に活用することが求められる。e-learningは時間を有効に使いながら、主体的に学習を行える点で、非常に効果的と言える。最後に、全ての教養科目は大学4年間の学びの土台になり得るため、目標・目的をもって取り組む必要がある。



人文社会科学部
人文科学コース
2年
岡井 美那

様々な分野の受講が自分のためになる

高知大学の教養科目には、人文、社会、生命・医療、自然、外国語、キャリア形成支援の6つの分野があります。自分が興味を持った分野の講義を選択することもでき、所属学部とは関係のないような分野も受講することができます。

私は人文社会科学部に所属する根っからの文系なのですが、1年の第1学期に「スポーツ科学講義」を受講しました。もちろんこの授業は人文分野でも社会分野でもない、生命・医療分野です。私が専攻したいのは日本文学や日本語学であり、スポーツ科学は専攻に関係ありません。しかし、初めて知ったスポーツの歴史や現代の問題があり、この授業を受講して新しい発見がありました。

教養科目で様々な分野の講義を受けることは、自分自身の知識を深めることができます。また自分が専門とする学問に対して、あらゆる方向からの視点を養うことに繋がります。私は人文分野を中心に授業を取りましたが、もっと他の分野を受講するのが自分のためになると思います。

教育学部
学校教育教員養成課程
4年

山本 和孝

専門外の授業にある成長の種

私は、教養科目を履修することで、様々な分野に対する知識・見聞を広めることができた。

私は、教育学部学校教育教員養成課程の学生として入学してきた。したがって、当然のことながら、教職をとるための専門的な講義を多く履修することになる。しかし、そのような専門的な勉強ばかりしては仮に教職につくことができても、教育のこと以外は何も知らないまま、社会に出てしまうことになる。これでは、自分の中の引き出しは非常に少ないものとなってしまい、社会人として浅薄な知識しか持つことができない。そこで、教養教育科目を履修することで、様々な知識を得ることができる。大学の教授は、自らの分野について専門的な研究を行っている、いわばプロフェッショナルだ。そのような深い知識を持つ方から教えていただくものは、自分自身を社会人として大きく成長させてくれる。教養科目は自らをより深い含蓄を持つ人間へと成長させてくれるものだと考える。



教育学部
学校教育教員養成課程
4年

吉岡 大貴

視野を広げる

教養科目とは、各学部特有の授業とは他に、自然・人文・社会・外国語などから特定の単位数を取るものであり、各学部の勉強に専念したい人からすれば、必要ないものなのではないかと思われるかもしれない。確かに、自分のしたい勉強だけをするのも、後の人生には全く支障ないものだと思う。しかし、教養科目は自分の視野を広げるために有効なのではないかと自分が受講して考えた。自分とは専門が違う分野の視点や考え方を知ることは、自分が本当にしたいことを多角的に見ることにつながり、より自分の勉強に厚みを持たせることが出来るのではないかと思う。

今まで堅苦しく言ってきたが、自分の専門の他に興味がある分野の教養科目を取り、それが自分にとって有益であったり、面白かったりすればラッキーという気持ちで受け取ると、より気楽に教養科目の授業に向かっているのではないかと思う。

楽な科目よりも興味のある科目を

教養科目は専門的な知識を深めようと大学に入学してきた学生にとっては不要なものに思えるかもしれませんが。したがって、先輩や友人などに比較的楽に単位が取れるものを教えてもらい履修登録をするということも少なくないと思います。

しかし、教養科目は自分の知識を様々な分野に広げることや、大学での学ぶ姿勢を身に着けるうえで非常に重要なものであると考えます。楽に単位を取れるからといって、興味のない講義を受けていても、学習意欲は出てこないし、きちんと学ばなければ知識が広がることもないはず。なので、教養科目の履修選択はシラバスをしっかりと読むことが重要で、講義の形態や、何を学ぶことができるかを知ることができます。

教養科目では、講義を受けるためにその分野の専門的な知識が必要であることはなく、どんなに勉強をしても単位が取れそうにないということはほぼないので、ぜひ自分が興味のある講義を履修してほしいと思います。



理学部
応用理学科
4年

大西 晃平



理学部
理学科
3年
本山 徹

教養科目の早期履修のすすめ

教養科目を履修する上で一番大切なのは、いかに早く単位を修得するかだと思う。結局は何を目的として大学に入学したかという問題だが、専門分野の勉強を教養を深めることよりも重視しているなら、大学4年間という有限の時間の中で、最も専門的な知識が浅い1年次に教養の履修を終えるのが最善だ。なぜなら1コマ90分でできることは学年を追うごとに増えていき時間の価値が変わっていく。要卒単位が決まっている以上教養の履修は避けられないのだから、履修は早々に済ませるべきだ。その上で専門科目の勉強を差し置いても学びたい教養科目があるならば、勿論自由に履修すればいいと思う。

また、教養科目というのはほとんど前提知識を必要としない入門レベルのものなので、詰め込みすぎるといった心配はない。実際、私は1年第2学期で32単位履修し、うち14単位が教養だったが時間に追われるということはなかった。なので、より有意義な時間の使い方をするためにもまずは時間割に可能なだけ教養を詰め込んでみるというと思う。

専門分野を学ぶ事前準備

教養科目は、学部学科を問わず、様々な分野の授業を履修できるため、幅広い知識と視野を養うことができます。そのため、授業内容は初めてその分野に触れた人でも分かりやすく、興味深い講義が多かったです。

私は、入学当初から食品分野について学びたかったので、受講科目の大半が食品や農業についての講義でした。しかし今にして思うと、もっと他分野の講義も受けておけば良かったとも思います。農学部の場合、2年生以降はキャンパスも変わり、受講する講義も専門性の高い授業が中心となり、他分野の授業を受ける機会が減ります。そのため、1年のうちに様々な分野に触れ、知識を蓄えておくことも重要だと感じました。専門外の分野を学ぶことが、新たな発見につながったり、そこで学んだ知識が意外な所で役立ってくることもあります。自分の専門分野を勉強するための事前準備として、1年のうちに様々な知識に触れておくことをお勧めします。

意外なところに自分の興味の接点がある

教養科目は、人文、社会、生命・医療、自然、外国語の5分野から成り(※1)、所属する学部学科に関わらず、様々な分野の授業を履修できます。私は、「フードサイエンスの世界」や「魚と食と健康」といった農学部の先生方が担当している授業だけでなく、「地震の災害」や「お金と経済」、「健康A」など他学部の先生方の授業も履修しました。その理由は、所属する学部の授業にこだわるのではなく、自分の興味のある授業を様々な分野から履修することで、自分の視野をもっと広げられるのではないかと思ったからです。なかでも「地震の災害」は、入学式で岡村先生による南海トラフ地震に関する講演を聞き、自分たちに今できることは何なのか、現在どのような対策が取られているのか、などをもっと知りたいと思ったので履修を決めました。履修案内にはたくさんの科目が掲載されているため、どれを履修するのか決めるのに時間がかかるかもしれません。その際は、シラバスや先輩のアドバイスなどを参考にし、自分の興味のある授業を履修してみてください。

※1：共通教育のカリキュラム改正に伴い、平成28年度入学生より、「キャリア形成支援分野」を加えた6分野となっています(地域協働学部除く)。



医学部
医学科
2年
山本 真梨子

「スポーツ科学講義」について

教養科目の中には「スポーツ科学講義」という授業があります。この授業はTBLの授業形式で行われ、各ユニットにおいて予習・iRAT・tRAT・応用課題を繰り返すことにより段階をふみ理解をし、わからないところなどを自分から調べ学んでいきます。またテストが選択問題なのですが、各班で自分たちで問題を作り貼りだし、さらに理解を深めたりしました。授業では、ドーピング問題や障害者スポーツ、身体とはどういうものかについてなどスポーツを取り巻く社会的問題について学習していきます。この授業において医学部として特に理解が深まった点は、私達が医学を通してスポーツの成績やスポーツを行う人々の身体にどのような影響を与えるのかということです。これらの知識はほかの授業などでも使うことが出来、人々と医学、またはスポーツの関係について十分に理解をすることができました。

この授業を通ししっかり自分から学習する姿勢をえたり、あまり今まで見たことのない視点からスポーツについて考えることが出来ました。医学部だからこそその視点で話してくれることもあり知識としては十分に必要なものだと思います。

医学部
看護学科
2年
大塚 匠海

「環境保健学」と健康

「環境保健学」では、過去から現在の環境問題について学び、それがどのように私たちの健康に影響してくるのかを学びました。特に日本の4大公害といわれている水俣病・第二水俣病・イタイイタイ病・四日市ぜんそくは多くの地域住民を苦しめた公害であり、さらに被害者の方の中には差別を恐れて症状を明かすことができなかつた人もいたようで、誰にも助けを求めることができず苦しんでいた様子を想像すると胸が痛みました。環境問題は、企業はもちろんその地域で暮らしている人たちにも関係のあることで、どのようにすれば良い環境を保ちつつ生活を発展させていくのかを考えるべきで、医療者はそれに対して人々の健康状態の異常にいち早く気付いて勧告・治療を行うことが重要なのではないかと思います。他にもがんや感染症についても学び、将来的に私たちが関係してくる保健師の仕事について関心を抱ききっかけとなるような講義でした。



地域協働学部
4年
神尾 はな

裏のテーマを考える価値

私は、教養科目は専門科目で偏りがちな視点を広げてくれるものだと考えています。教養科目で得た知識は私の学生生活を広げてくれたと思います。とくに印象に残っている授業は、「文学と社会」です。この授業は、エッセイ、詩、小説、絵画、映画など、それぞれの作品の「表のテーマ」と「裏のテーマ」を作品が書かれた土地や時代背景、作中の表現から考察し、作者が本当に伝えたい「裏のテーマ」は何であるかを考える授業でした。普通の文学作品鑑賞を行うよりもひねくれた見方で考えるため、純粋な鑑賞はできません。しかし、ひねくれて考える分、作者がこの作品のどこにテーマの欠片を隠したのかを注意深く観察する癖ができました。この癖は、専門科目や実習だけではなく、日常生活においても応用できる場面が多く、いくつかの可能性を考えながら行動することができるようになりました。教養科目は他学部の先生が行う授業である場合が多いため、知識の幅をひろげることができる授業であることに加えて、思考の視点を増やす機会でもあると考えます。

土佐さきがけプログラム
グリーンサイエンス
人材育成コース
2年
小松 響

教養科目の履修について

私の考える教養科目の特徴は、興味のあることを自分の意思で学ぶことができるということです。学部やコースによって必修科目が出てきますが、教養科目では文系理系に関係なく学ぶことができ、また、専門外の人でも一から学ぶことができます。

教養科目の多くは専門的で難しい部分にまでは踏み込みませんし、予備知識のない状態でも履修することができます。社会に出てからは学べないことを大学の先生に教わる絶好の機会でもあるので、興味のある分野は積極的に受講していくことをおすすめします。実際に受講して「思っていたものと違う」ということになっても仮登録の期間内であれば履修を取り消すこともできます。

しかし、教養科目も一つの講義ですので単位が関わり、レポートや試験なども課されます。楽そうだからという考えはせず、自分が何を学びたいのかを考えて選ぶようにしてください。

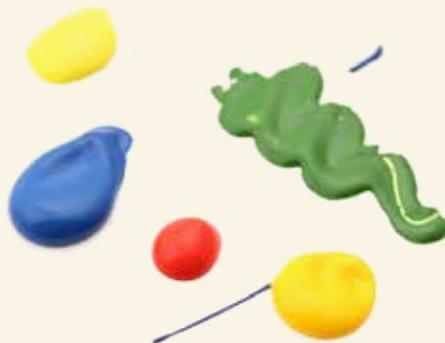
「グローバルコミュニケーション」について

私は2年次に「グローバルコミュニケーション」を履修しました。海外実習として夏休み中にオーストラリアのクイーンズランド大学の語学学校にホームステイをしながら通いました。英語圏に5週間生活しながら短期集中で英語を学習したことで、IELTSのスコアが大幅に上がりました。座学はもちろんのこと、教室の中だけでは伸ばせない実践的な英語も学ぶことができたからだと思います。ブリスベンでの滞在期間中は、授業以外にもホストファミリーやクラスメートと有意義な時間を過ごすことができました。

この科目は、海外実習以外にも学内で事前学習と事後学習もありました。事前学習では海外で安全で快適な生活を送るための細かい準備も行ってくれたので、安心して渡航することができました。帰国後の事後学習では、留学先での学びを各自英語でレポートにまとめ英語で発表を行いました。

様々な異文化体験ができて単位も修得できるのが、グローバルコミュニケーションの魅力だと思います。

土佐さきがけプログラム
国際人材育成コース
3年
加藤 未有



特集 教養科目

「教養科目」授業の感想、
意義、受講にあたっての
アドバイス等

Part 2

教員から



人文社会科学部
(黒潮圏総合科学専攻)

新保 輝幸

土佐の海の世界学Ⅰ：柏島の海から考える

この授業は、海をテーマにする座学の授業と、海の豊かさやそれに関わる問題を現地のフィールドで実感する現地実習から成り立っています。特に実習では、シュノーケリングによって海中の多様な生物を観察したり、現地の問題を地域の人と一緒に考えたりするプログラムが用意されています。

海は私たちの目の届きにくい世界です。私たちは海中ではごく短時間しか活動できず、概ね陸上で暮らし、科学もまずは陸上から発展していきました。しかし1980年代以降、スキューバ・ダイビングの技術や機材が一般にも普及しはじめ、一般の旅行客は海中に広がる美しい景観を見出し、科学者も興味深い未知の問題に取り組むようになったのです(ざっくり言えば)。

授業では、高知県の柏島の海とそれに関わる人間の生活や社会を題材に、広く海の問題とその解決策について考えます。柏島は高知県の西南端に位置し、その海は、熱帯から流れ来る黒潮と温帯の豊後水道の海流の影響を二つながらにして受け、造礁サンゴが豊かに発達し、多様な海中生物が生息しています。その美しい海中景観から、80年代後半以降、多くのダイビング客が訪れるようになりましたが、それに伴い人口500人程度の小さな島では様々な社会問題が発生することになりました。私たちは、柏島の問題を広く自然科学と社会科学の両面から研究する必要があると感じ、両分野の研究者を組織して柏島の海の問題に取り組むようになったのです。2001年にはその成果を学生のみなさんと共有するためにこの授業を開講し、05年には柏島実習を含む現在の形に整えました。

授業では朝倉キャンパスでまず柏島や海について事前に学んで準備した上で、8月末に柏島での現地実習を行います。実習は現地のNPO法人黒潮実感センターと共同して行います。シュノーケリング実習では、シュノーケリングに慣れた教員やTA、黒潮実感センターのスタッフなどを動員し、チームを組んで指導を行いますので、不慣れな方もシュノーケリングのイロハを一から取得できるでしょう。海の豊かさや、海に関わる人間世界の問題について、みなさんに実感してもらい、考えてもらうというのがこの授業の目標です。

教育学部

山崎 聡

邂逅相遇と好奇心

大学に入学して、すぐに履修する科目群に共通教育科目があります。教養科目はその一部です。教養科目を学ぶ意義とは何か？と問うならば、普通は(社会人として必要な)一般教養を身に付けること、と答えられるかもしれませんが、ここではそれは置いておきましょう。よくいわれることですが、人と人との出会いも運命的ですが、本と人との出会いもまた運命的です。たまたま手にした一冊の本がその人の人生を変えることになったという事実は結構あります。大学の講義もそれと同じではないでしょうか。ポイントは、人にせよ、本にせよ、講義にせよ、それまでの自分の習慣や興味とは無縁に思えた対象との邂逅によって画期的な人生展開が訪れることが往々にしてある、ということです。学生の皆さん、それぞれ特定の学部に入りましたが、特定の学部の特化した専門授業だけ受講していても得られない出会い(気づき)があるはず。例えば、社会科学系の学生だと、自然科学系の知識は必要ないので学ばなくてもよいとか、苦手だとか、関心がないといった理由で後者の科目を敬遠する向きもあるでしょう。ですが、それは非常にもったいないことだと思います。上で述べた、運命を大きく変えるイベントを逃すことになってしまうかもしれないからです。人間の視野は大して広くありません。自分の視野に限定された生活に留まっていたら、そうした運命的な出会い(気づき)を逸してしまいます。だから、教養科目においては、各自の学部、各自のそれまでの関心を離れて、思い切り自分にとっては無縁だと思える科目、異質な科目を選択してみてください。そうした科目がまさに「運命的な展開」をもたらしてくれるかもしれません。「自分が興味を持つ科目を履修すること」だけではおそらくダメで、「こんな科目にも興味を持てた自分を再発見！」という好奇心のフロンティアを開拓する必要があります。多彩な科目群を擁する教養科目はその好機なのです。

eラーニングでも授業を受けられます

私はこれまで教養科目を担当していなかったのですが、平成30年度から「インタフェースデザイン概論」という教養科目を担当することになりました。この科目は、全てeラーニングで授業を行います。したがって、受講生は決まった時間に決まった教室に来て授業を受ける必要がありません。課題の提出期限に間に合えば、いつでもどこでも好きなときに受講することができます。授業を受けたり、課題を提出したりするのは、全てウェブブラウザ上で行います。もしかすると、パソコンを使わなくても、スマホだけで授業を受けることができるかもしれません。ちなみに、担当教員の私も、決まった時間に決まった教室へ授業をしに行かなくてもよいという利点があります。

このようなフルeラーニング科目は、私が担当している授業の他に、平成30年度には50科目以上が開講される予定となっています。履修登録システムで授業を探しているときに「知プラe科目」と書かれた科目があれば、それがフルeラーニング科目です。知プラeというのは、四国の5つの国立大学(高知大学、香川大学、徳島大学、鳴門教育大学、愛媛大学)の連携による、eラーニングの共同実施を行う取り組みの名称です。私が担当する「インタフェースデザイン概論」も知プラe科目ですので、同時に、他の4つの連携大学においても、eラーニングで同じ科目が開講されます。逆に、他の連携大学の教員が担当する知プラe科目も、高知大学の教養科目としてeラーニングで開講されます。

eラーニングは敷居が高いと思われるかもしれませんが、既にたくさんの学生が受講しています。平成29年度には38の知プラe科目が共同開講されましたが、5大学合計で延べ4,596人が履修しました。うまくeラーニング科目の履修を取り入れれば、時間を有意義に有効活用できるようになるのではないかと思います。ぜひeラーニング科目の履修を検討してみてください。



理工学部

三好 康夫

農林海洋科学部

河野 俊夫

教養科目はアドベンチャー！楽しみましょう。

新入生諸君はこれまで、大学受験を目標とした学習に一生懸命だったかと思います。理科の教科書や参考書は、受験で高得点をとるための材料に過ぎなかったかもしれません。大学に入学して初めて習う科目が教養科目ですが、これらは「物知り」になることが目的ではなく、諸君が生きているこの世界の面白さを感じるために必要な科目です。私がかかわる教養科目「地域の農林資源と環境科学」もその一つです。この科目は農林海洋科学部・農林資源環境科学科に所属する先生方15名によるオムニバス形式の講義で、教員ひとりが1回ずつの講義を担当して、専門とする分野の「面白い話題」を提供します。どう面白いのかは、ぜひ受講して確かめていただきたいのですが、農学の世界の意外性が随所に出てきます。タイトルの一部を列挙すると、「中山間地の地形が生み出す気象資源的価値」、「化学の目で見る生態学」、「森林・林業と農村」、「森林の水源涵養機能と林業」、「地下水汚染を防ぎ価値を産み出す植物浄化技術の開発」、「地域の音環境資源」、「地球温暖化は森林をどう変化させるのか」、「花の不思議」、「地域の水環境とその管理」、「農産物や食品の産地偽装問題」、「自然環境と外来生物」などです。どうでしょうか、「農学」と言っても、トラクターや田んぼだけの印象とは違って、身の回りの様々なことが関わりをもっていることが分かりますね。この「関わり」を学ぶことが教養につながります。物事は個別の事象として知るだけでは面白みは感じられません。意外なところに意外な接点やつながりがあり、それを自分で見つけるからこそ面白いのです。自分の知らない世界に飛び込んでみましょう。教養科目はアドベンチャーです。

医学部看護学科

高橋 美美

教養科目から看護の技術として展開する「コミュニケーション論」

「コミュニケーション」というと何を思い浮かべるでしょうか。こうした問いから、この講義は始まります。とは言っても、とても広い概念であり、社会の中で生きていくには、もちろんコミュニケーションは欠かせません。看護学科で開講している『コミュニケーション論』は、教養科目の「社会分野」に位置し、対人コミュニケーションに焦点を当て展開しています。

厳しいようですが、対人援助職である看護では、コミュニケーションが苦手、センスがない、と逃げることはできません。そこで、コミュニケーション・スキルとして磨くことができるという意識と同時に、そのスキルを活用して、相手を大切にすることを示す関わり方を学び、相手の中に望む方向への風を吹かすことができるということを技術の側面から認識する必要があります。

1年生の授業として「援助関係の基盤となるコミュニケーションについて学ぶ」ことを目指します。15回の講義の中で、コミュニケーションの構成要素とプロセスの基本メカニズムを学習します。そしてペアワークを繰り返しながら、非言語・言語メッセージの役割を学習し、カウンセリングの基礎にも重なる具体的技法をトレーニングしていきます。後半は集団に視点を移し、グループダイナミクスと集団バイアスの基本知識と合意形成のミニワークを行います。最終段階では、紙面上ではありますが、いくつかの看護場面（患者さんに対する看護師の対応場面）を見比べて、看護師が何を意識したかによって関わり方に影響し、患者のどんな気持ちを引き出すことになるのかを分析していきます。これによって、対人コミュニケーションを“相互作用のプロセス”として理解していきます。

講義とミニ演習によるタイトな展開の中ですが、受講生一人ひとりが、体験を通して「伝える力」「聴く力・聞く力」等の自分の長みに気づけるような仕組みをとっています。援助職として自分のどのスキルを磨き、どういうコミュニケーションをとる必要があるのかを考え始める出発点の科目となっています。

地域協働学部

玉里 恵美子

社会学という学問の扉を開く「社会学を学ぶ」

社会学は面白い学問です。社会学は社会科学の中でも比較的新しく、フランスのオーギュスト・コントという哲学者が“社会学”という名称をつくりました。社会学の父と呼ばれているコントに続く多くの社会学者が、目に見えない“社会”を見るために、様々な視点や手法を編み出してきました。実は、社会を構成しているのは複数の人間なのです。人間によって構成される集団や組織、そして、彼らの行為や意識について考えていくことが社会学の十八番になっています。

「社会学を学ぶ」の前半では、まず、社会学の二大巨匠といわれるマックス・ウェーバーやエミール・デュルケムの研究や理論を紐解きながら社会学の独自の視点について説明していきます。次に、日本の農村に目を移して、私の専門とする「農村社会学」の基礎的な知識を習得していきます。農村社会学の金字塔である「イエムラ理論」は古くさく感じるかもしれませんが、農村について理解を深めることは、日本社会の基礎構造を知ることに通じると思います。高校までに学習してきた暗記科目としての「社会科」との違いを楽しんでいきましょう。そして、後半では、高度経済成長期以降、地方が抱えてきた過疎化の問題について国の資料などを用いながら検討していきます。最後に、高知県における課題解決に向けた取組を紹介し考察します。このように、15回の授業は盛りだくさんの内容で構成されていますが、第1回目の授業から最後の授業までが、社会学の扉を開くための一連の流れになっています。受講生の皆さんには、たっぷりと社会学を味わってもらえるように、毎回、KULASを通じて授業のポイントや重要概念を配信しています。

ところで皆さん、ブラジルの国旗を見たことがあると思いますが、真ん中の白い帯に何か言葉が書いていますね。あれは、オーギュスト・コントの「秩序と進歩(Ordem e Progresso)」という言葉です。なんだか、社会学が身近になったのではないですか。それでは、「社会学を学ぶ」でお会いしましょう。

「グローバルコミュニケーション」

グローバルコミュニケーションは、共通教育教養科目として平成29年度に初開講しました。当科目では事前学習、海外実習、事後学習を通して、語学力の向上や国際感覚の涵養を目指します。

平成29年度は、3学部から計7人が履修し、海外実習では、8月下旬から9月下旬まで本学の協定校であるクイーンズランド大学(豪クイーンズランド州)併設の語学学校に通いました。履修生は、これまで短期かつ近場の海外旅行をしたことはあるものの、5週間にわたる英語圏での生活は初めてという人がほとんどでした。7人はそれぞれブリスベンの異なる地域で異なる文化背景、家族構成の家庭に滞在しました。また、語学学校においてもそれぞれ別のクラスに所属し、様々な国籍の受講生とともに英語を学びました。

さて、英語に限らず外国語学習を取り巻く環境は、インターネットのおかげで急速に変化してきました。スマホやパソコンで海外ニュースを読んだり、洋画を見たりと教材に困ることはありません。しかし、語学力はインプットだけでなく、アウトプットも同時に行わないとなかなか伸びないものです。外国人が少ない高知県においては、外国語を使う機会はあまり多くはありません。使う機会がなければ勉強しようという気持ちにもなかなかなりません。やる気スイッチをオンにする一番簡単な方法は、その言語を使わないと生きていけない環境に身を置くことです。これまでインプット学習はたくさん行ってきたけれど、あまり使う機会がなかったという人は、5週間のオーストラリア滞在中で英語力が飛躍的に伸びる可能性があります。

世界の5人に1人は英語を話せると言われている今の時代、英語はもはや武器ではありません。就職先が国内であっても、英語がある程度使えるという事が社会人としての最低条件となる時代はそう遠くないでしょう。学部を問わず高知大学の全ての学生に海外や異文化、外国語をもっと身近に感じてもらいたいと思います。

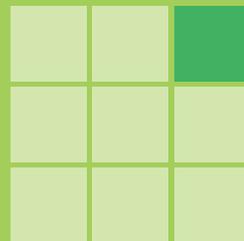
土佐さきがけプログラム
国際人材育成コース

柴田 雄介

共通教育自己点検・自己評価部会の活動

平成 29 年度共通教育自己点検・自己評価部会長

有川 幹彦 (理工学部)

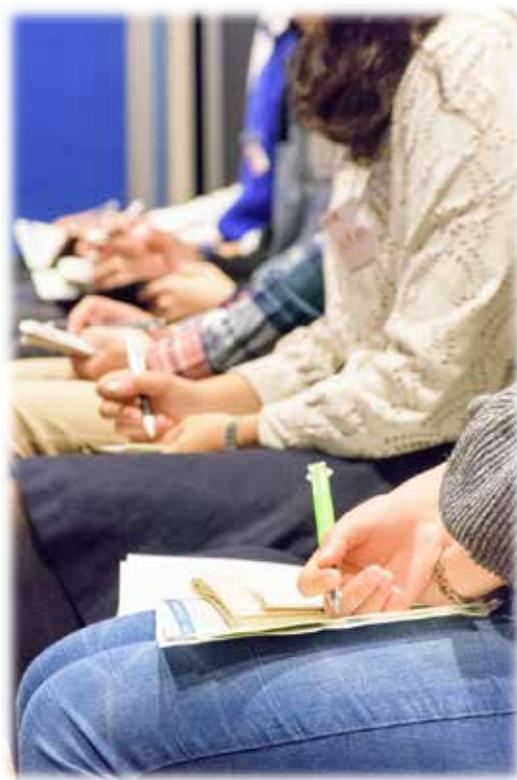


共通教育自己点検・自己評価部会は、FD部会と連携・協力しながら、共通教育の各分科会で行われている自己点検・自己評価活動の統括と支援を行っています。近年では「授業改善アクションプラン」の実施を中心に活動しています（「授業改善アクションプラン」についての詳細はパイプライン第39号を参照してください）。本稿では、授業に対する他者評価を得る方法として一般的に利用される「学生アンケート」について思うところを述べたいと思います。

学生アンケートは、教員の教育能力と授業の質を評価するものではありません。該当する授業に対する学生の意見を収集し、その結果を教員にフィードバックすることにより、教員に自身の授業を客観的に振り返る機会を与え、さらには自発的授業改善を促すことにより教育の質の向上につなげることのできる意義ある取り組みなのです。したがって、そのアンケート結果を十分にかつ正しく分析し、それをもとに教員が自身の授業をより良いものに改善できてこそ意味を成すものと考えます。そのため、分析・解析のための情報源として、アンケートの質問項目に対する学生からの回答、特に自由記述欄への率直な意見がとて重要となります…が、学生諸君！君たちはアンケートに本音をぶつけていますか？ぼんやりと質問を読み、当てはまる理由を選択肢より探して何気なく○をつけていませんか？面倒くさいからと自由記述欄への書き込みを初めから拒否していませんか？ちなみに平成25年度の調査では、自由記述欄への回答率は4割を下回っていました。とても残念です。

アンケートの個々の質問項目を見てみると、その内容から以下の2つに大別することができます。ひとつは「教員自身の教育能力に関する評価」で、もうひとつは「受講生の主観や成果」です。前者は、教員側が授業を実施する際に意識することにより、アンケートの結果をある程度操作することができます。例えば、授業の冒頭に目的や課題を提示し、大きな声でゆっくりと授業を行い、資料をしっかりと準備すれば、「この授業で教員は、受講生に分かりやすい授業をするように努めていると思いますか」という質問項目に対して良い評価を得ることができると期待できるわけです（残念なことに、その努力さえも怠って、あるいは教員の教育能力がそれほど高くなく、結果として評価の低い教員がいることも事実ですが…）。教員側で操作することが難しいのは後者、すなわち「受講生の主観や成果」です。もう少し厳密に言うと、主観と成果とは分けて考えるべきです。例えば、「この授業で教員は、受講生の学問的関心や知的好奇心を高めるように授業を進めていると思いますか」という質問項目があります。これに対して、受講生が、教員が学問の最先端に触れる話をしている、あるいは授業内容が学問や社会の現代的課題に込んでいると思えば回答は「はい」になります。これが受講生の主観です。では、受講生の成果はどうでしょう。教員の授業に対する取り組みや努力は認めつつも、実際に受講生が自身の学問的関心や知的好奇心が高まったと感じるかどうか、あるいは実際に高まるかが重要なのです。それが達成できる授業は質の高い授業と言えるでしょうし、そのような質の高い教育を受けることは学生の権利とも言えるでしょう。学生アンケートとしっかり向き合い、授業に対する本音を自由記述欄にぶつけることは、学生に与えられた質の高い教育を受ける権利を守ることにもつながるのです。

アンケートへの回答を教育に対する自己主張の場と捉え、授業改善のために積極的に取り組んでみてください。未来の質の高い教育は現在の君たち学生諸君の声によって作られると言っても過言ではありません。教員は自身の教育能力と授業の質の向上のためにも受講生の声を聞きたがっているのです。



e-ポートフォリオを活用しよう!

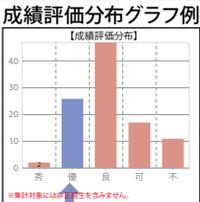
高知大学では、学生の学びと成長をサポートするため、平成29年度からe-ポートフォリオの運用を開始しました。

e-ポートフォリオは、学生の入学から卒業までの学修成果を振り返ることができるシステムです。e-ポートフォリオを活用することで、学びの目標設定(Plan)→実行(Do)→振り返り(Check)→改善(Action)を意識することができ、学生の学びの量と質の向上につながります。

e-ポートフォリオ内の情報の多くは、アドバイザー教員と共有されます。学生と教員の間で情報を共有することにより、学生はより良い支援を受けることができます。

履修状況を確認

今学期に履修登録した授業科目の担当教員、シラバス、講義資料などを確認できます。また成績評価分布などをグラフや表で確認できます。



※集計対象には休学生を含みません。

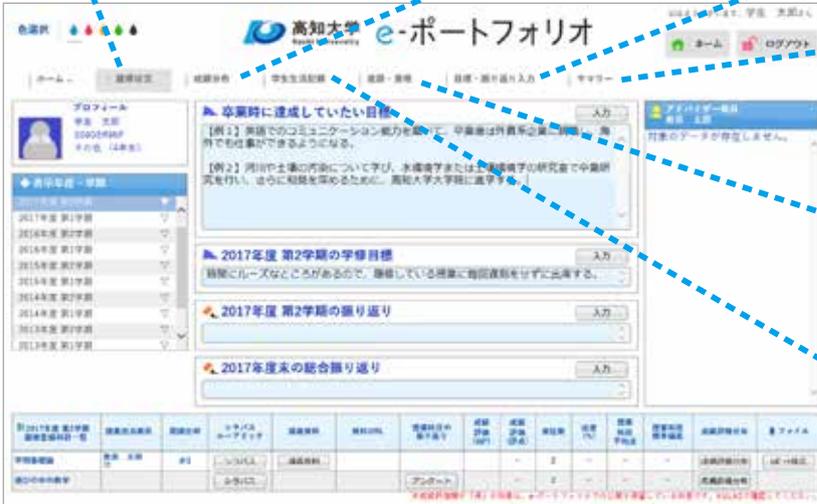
学修成果をグラフで確認

過去の学期の成績分布やこれまでの累積成績分布、GPA・修得単位数の推移などをグラフで確認できます。

目標・振り返りを入力

卒業時に達成してきたい目標や学期毎の目標と振り返りを入力できます。

e-ポートフォリオ履修状況画面



ポートフォリオサマリー

e-ポートフォリオ内にある様々な記録を1つの様式に見やすく納めたサマリーを閲覧・出力できます。

進路希望や資格取得状況を記録

進路希望状況や取得した資格を記録できます。

学生生活を記録

在学中の準正課活動や部活動・サークル活動、ボランティア活動など、いろいろな活動が記録できます。

利用者の声

自分の“現在地”をe-ポートフォリオで常に確認

教育学部 4年 清家真歩さん

私は、各学期のはじめに目標を記入することで、目的を持って授業を受けられるようにしています。そして学期ごとの振り返りの欄を活用することできちんと振り返りを行い、自分の学部の中での位置を確認しています。また、学生生活記録欄を活用しまとめておくことで、教員採用試験の準備の際などに、その時感じた事を思い出すことができている。あっという間に1年が過ぎってしまったとならないためにも、これからも活用していきたいです。



就活にも活かせるから便利!まずは使ってみて!

地域協働学部 4年 松田柚紀さん

就活を始めた3年次の夏頃からさまざまな就活サイトで同じようなことを書くことが増え、大学で学んだことや課外活動、サークル活動の取り組みを書いて保存できるe-ポートフォリオを利用するようになりました! e-ポートフォリオに残しておけばいざと言う時どこでも自己アピールを就活サイトや企業のマイページに記入できます。私が早期に内定をいただくことができたのは、やはり、e-ポートフォリオを使いながら早く動き出したことが良かったのだと思います!



編集後記

今回は、教養科目が特集でした。教養科目の大きな特徴の一つに、「特定の学部学科に限定されない多種多様な科目群を擁する」ことが挙げられるかと思えます。例えば、最近「多様性」という言葉をよく耳にしますが、まさに教養科目は学びにおける多様性の具現です。皆さんの大学人としての成長・進歩にとって、その多様性は不可欠ではないでしょうか。(Y)